

(様式D-2)

(別 紙)

令和 5 年度 海外派遣研究員研究報告書

令和 5 年 1 1 月 2 7 日

日本大学理事長 殿

日本大学学長 殿

所 属 松戸歯学部 (口腔科学研究所)

資格・氏名 教授・河相安彦

■本報告書の内容を公表することは了承しております。

(公表可の場合、チェック■すること)

令和 5 年度海外派遣研究員 (短期 B) の研究実績を、下記のとおり報告いたします。

記

1 区 分 短期 B

2 研究課題

北米の高等教育における教員の教育活動に対する組織的支援の比較に関する研究

3 派遣期間 西暦 2023 年 9 月 17 日 ~ 2023 年 10 月 9 日

4 派遣先 カナダ

5 研究目的

近年、多様かつ新規デバイスを駆使する学生の学修活動に合わせた学修方略を構築するには、教員個人の力量 (ミクロレベル) のみでは限界がある。一方、大学や部科校 (マクロレベル) には、教育に対する学生の育成に対する説明責任と教育の質の担保が求められている。教員個人の教育活動 (ミクロレベル) の持続的な質の向上と改善が、マクロレベルの質の担保と保証につながると考えられるが、それにはミクロレベルの教育活動を組織的かつ専門的に支援する仕組み (ミドルレベル) が必須である。本研究の目的は、北米の各高等教育機関で組織化され、教員等の教育活動を支援している教育・学修支援センター等 (Center for Teaching and Learning) の実態を複数施設で調査し、それらの共通点と、特異的な面を質的に検討し解析することであり、その結果から本学の教育改善に資することである。

6 研究概要

カナダにおける 4 大学の以下の機関における聞き取りと文書による質問を行った。

1) McGill University (訪問日 2023/9/20,10 時から約 1 時間) の概要:

センター名称: Teaching and Learning Services (以下、TLS, <https://www.mcgill.ca/tls/>)

QS World University Rankings 2024, (30 位, カナダ 2 位)

学生数 50,000, 教員数 3,300,学部数 (Faculty/School: 24)。TLS の Faculty and

(様式D-2)

Teaching Development の Carolyn Samuel 氏 (PhD) および Student Learning and Development の Alexander Liepins 氏 (PhD) との意見交換と質問票による聞き取りを行った。同大学では 5 万人以上の学生と非常勤を含めると 1 万人以上の教員がおり、11 の学部で教員へのサポートのレベルが様々であること、大学教員は経済的な障壁や FD センターとの接続の難しさに直面していることなどが挙げられた。そこで、センター長は教員や学部との調整を図り、プログラムの重複を避けるために、指導者の支援を分野別に提供する課題に対処しているとのことである。学生関係の支援では、様々なチャンネルを通じて、定期的なプログラムや講師派遣を学生に提供していた。センターの運営課題は、分野別に指導者の支援の提供課題について、各々の適性を見極めた個別相談の必要性が挙げられた。支援であっても、関心と意欲のある教官との協調が重要であり中心であるとのことである。大学全体としては、教育・教学を担当する責任者 (Provost, 副学長) 職を設け、教育課題が優先される傾向があり、また TLS としては、教育効果の評価方法の模索を行っている最中である。Covid19 後は、オンラインプログラムに制限を設け、対面学習を優先している。2020 年秋に再開し、オンラインコースは 2020 年 3 月に、対面式学習は 2020 年 3 月に再開しているが、教員は対面に戻ることには抵抗があり、対面式プログラムの促進には至っていない現状がある。FD 活動については、経済的な問題や教育資源や業務の優先順位が限られているなどの理由から公平性に課題があり、ハイブリッド・イベントの開催も難しい現状がある。教員は、学生に対する教育や支援を提供する上で課題に直面している現状がある中で、TLS の相談員は学習管理システム (LMS) の設定や教育と学習の技術的な支援を提供し、従来の専任相談員だけでなく、TLS のメンバー全体が役割を分担し、それらに当たっている。

2) Concordia University (29023/9/25 10 時から約 2 時間半) の概要:

センター名称 : Center for Teaching and Learning (以下、CTL,
<https://www.concordia.ca/ctl.html>)

QS World University Rankings 2024 (387 位, カナダ 17 位),
学生数 49,00, 教員数 4,400, 学部数 (Faculty/School: 6)

CTL の Senior Instructional Developer である John Bentley 氏との意見交換および質問票による聞き取りを行った。大学では (Provost, 副学長) 職を設けプロボスト・オフィスと緊密に連携し組織化され、大学と州政府などを含めから十分な資金提供と支援がなされている。2007 年に 3 名だった組織が、COVID19 後は 17 人にまで拡充されている。COVID19 の影響で、CTL に投資が続き込まれ、教員の専門能力開発の他に COVID19 時の遠隔授業を支援に取り組んできた。今まで少なかった学部から CTL に対する支援要請も多くなり、センターに対する認識が高まっていることを実感しているとのこと。センターは、ワークショップ等を通じ、多様な専門分野の教員を集め、共同研究・能力開発のための中立的な空間を作り出している。ここで重要なのはセンターが支援者であって大学の方針を押し付けていないことでありことを強調していた。しかし、実施は、COVID19 後は以前のように教員のセンター利用は減少し、学部や研究室に閉じこもりがちな傾向である。今後センターは、教育

(様式D-2)

ツールの提供、IT部門の戦略的プランニングに関与しながら大学の意思決定につなげたいとの考えが示された。同大学はキャンパスが2ヶ所に分散しており、コミュニケーションがとりにくいため、センターを2つの拠点に分けることを検討している。各キャンパスの教員はオンライン・ワークショップへの参加は積極的であるが、対面ワークショップなどに参加する教員は増えているものの義務感で参加している所感を得ているとのことである。ワークショップのプログラムは30~40人の教員が新任教員オリエンテーションを開催していたが資源や参加者に限りがあったため、現在は10~20人で行っているとのこと。教員の終身雇用にはポートフォリオは必須で、その支援も業務としている。一方でCTLのメンバーがキャンパス現地にパネルディスカッションやイベントに招待されることもあり、今後は出向支援も検討しているとのことである。

3) University of Toronto (2023/9/30 11時から30分程度)の概要:

センター名称: Center for Teaching support & Innovation (以下CTSI)

創設 1827, QS World University Rankings 2024 (21位, カナダ1位)

学生数 64,000 教員数 3,200,学部数 (Faculty/School: 16)

同センターは、学期初めの繁忙期であることとスタッフ急病のため、質問票を手渡しその回答を得ることとした。改めて質問票はメールで送信し、上記日程でセンターを訪問した。センターから解答には時間を要することを伝えられ、回答期限を年末までとしたい旨の回答をいただいたことから、本報告書での記載は控えたい。

4) University of British Columbia: (2023/10/4-6に渡り各1時間程度)の概要

センター名称: Center for Teaching, Learning technology (以下CTLT, <https://ctl.t.ubc.ca/>)

創設 1908, QS World University Rankings 2024 (34位, カナダ3位)

学生数 54,000, 教員数 6,200,学部数 (Faculty/School: 19)

10月3日: ACTING ACADEMIC DIRECTOR Elisa Baniassad氏、Projects & Faculty Partnerships, SENIOR ASSOCIATE DIRECTOR, Jeff Miller氏と意見交換及び質問票により聞き取りを行った。この聞き取りではセンターの成り立ち、現状などの聞き取りが行われた。CTLTは、Teaching and Learning CenterやDistance Education Groupなど、いくつかの組織が統合し現在に至り、統合の初期段階として教員への支援を行う機構であることの意味を十分議論しながら定義することを目標にした。拡充されたセンターについては別図(7.研究の項)にある通りで7つのセクションに分かれて運用されている。教員は研究と教育の2つを職務とする教員が存在することを指摘されたが、FD開発プログラムへの参加に消極的であることも否めない一方で、25~30名からなる新任教員プログラムは有用であり、参加者から輪を広げたいとのことであった。

10月5日(午前): Teaching & Learning Professional Development SENIOR MANAGER Gillian Gerhard氏との意見交換及び質問票による聞き取りを行った。我が国で言うところのFDに関するセクションで、FDは大学の教育・学習強化の基金が学生の成長につながるように焦点を当て、教員の教育実践の革新と改善にも関与しているとのことである。例えば理学部では教育に関わる助成金の見直しにより、教育改善が

(様式D-2)

戦略的かつ重点的に行われるようになり、教育で指導的立場にある教員への支援も行われるようになってきている。教員は、助成金や能力開発プログラムを通じて、教育改革を主導する権限を与えられている。その他の学部においても、教育に関するプロジェクトに資金を提供するための助成金の申請書を提出が活性化されている。またFDプログラムは、教員が科目を最適化させる技能を身につける支援をしている。具体的には、時流に沿った内容を特定し、またインストラクショナル・スキル・ワークショップを通じて、プログラムのニーズを特定し、AIや反人種主義といった新たなトピックに基づくワークショップを開発する一方で、既に需要の高い既存プログラムも継続して提供している。新任教員には教育の質と終身雇用

(Tenure)への昇進に焦点を当て、教員の育成を支援している。また教育改善のためにピアレビューやピアサポートを行っているが、あくまで教員を評価するのではなく、教育改善と教員の支援であるという点を見失わないようにしていると強調していた。

10月5日(午後): Educational Evaluation & Research Senior Manager Adriana Briseño-Garzón氏と意見交換及び質問票により聞き取りを行った。午前中に行われた研究資金に関する教員主導のプロジェクト(以下、プロジェクト)を評価・強化・支援するチームの責任者である。このチームは学部横断で構成され、主に教育研究を中心とした学際的なプロジェクトの申請等の支援を行っており、これらのプロジェクトに対してコンサルタントとして協力している。具体的なコンサルティングは申請前に集中的に行われ、教員主導で行われる小さい規模か、センターの支援が強い大規模なプロジェクトもある。プロジェクトの例として、カリキュラム改善を目指し、学生、教員、卒業生からのフィードバックや目標達成度を測定するデータ収集方法、プロジェクトの評価などが挙げられた。また、教員と教育機関が協力して研究計画を策定し、質的研究、調査、混合法研究など、教育・保健分野を中心に様々な側面で研究が申請されていることも言及された。研究申請において困難な箇所は、教育実践が学生の学習成果にどのような影響を与えるかを測定する手段に関するもので、CTLTのコンサルタントはこのような課題に関わりまた、予算編成や研究費の使用方法についても相談に応じているとのことであった。

10月6日: Teaching & Learning Professional Development, STRATEGIST, OPEN EDUCATION INITIATIVES Will Engle氏 EDUCATIONAL RESOURCES DEVELOPER: OPEN RESOURCES Rie Namba氏と意見交換及び質問票により、主に聞き取りを行った。UBCのオープンエデュケーション(教育を学校や大学など教育機関の枠を超えて「オープン」にする活動、以下OE)は、教員のイノベーションから発展し、現在ではオープンアクセスの教科書やコースなどがポリシーやイニシアチブによって支えられている。OEの助成金は、教員がオープンな教科書を開発・出版するための資金と支援を提供している。報告によれば、オンラインコースと対面の伝統的なコースは同様に効果的であるが、同様な学習体験を生み出すにはオンラインコースのデザインが重要であり、また、オンラインと対面の適切なバランスを見出し、(ブレンデッド・ラーニング)・コースを提供する際の課題も今後の課題とされて

(様式D-2)

いる。教員は Pressbooks というオープンな教科書出版プラットフォームを使用して教材を作成し、学生と共有している。学生はラーニング・コモンズのウェブサイトやアプリなど、デジタル技術を学習に活用した、CTLT は UBC 図書館と協力して学習リソースの作成に携わっています。教育学部も協力し、デジタル時代におけるオンライン上のアイデンティティやプライバシーについて学生が批判的に考えるためのリソースを作成するプロジェクトも進行中である。これらのプロジェクトは、大学の教育・学習を担当するオフィスを通じて集中的に資金援助を受け、その資金源からも助成金が提供されているとのことであった。

7 研究結果・成果

1) 各教育支援機構の概要図である。

大学 (センター名称)	人員	センター部署	主要な業務
McGill University (Teaching and Learning Services)	30人	<ul style="list-style-type: none"> Director (1) Administration (4) Faculty Partnerships (5) Faculty and Teaching Development (5) Learning Environments (9) Student Learning and Development (6) 	<ul style="list-style-type: none"> Course design Program design Assessment (peer) Teaching strategies Teaching and learning technologies Mid-course evaluations Faculty partnerships Teaching portfolio Teaching awards
Concordia University (Center for Teaching and Learning)	20人	<ul style="list-style-type: none"> Director (4) Teaching Consultant (1) Instructional Designer (4) Online Exams (5) Pedagogy Advisor (2) Research & Planning (1) Curriculum Developer (3) 	<ul style="list-style-type: none"> Pedagogy (Learning methods) Course design Teaching technologies and tools Professional development Indigenous Decolonization Hub
University of Toronto (Center for Teaching support & Innovation)	26人	<ul style="list-style-type: none"> Directors (5) Evaluation & Assessment (1) Course Evaluations (5) Scholarship of Teaching & Learning (1) Programming, Communications & Special Projects (6) Teaching Assistants' Training Program (3) Teaching, Learning & Technology (5) 	<ul style="list-style-type: none"> CTSI Programming Scholarship of Teaching and Learning Teaching Award Support Educational Technology Course Evaluations Resource Library
University of British Columbia (Center for Teaching, Learning technology)	91人	<ul style="list-style-type: none"> Director (3) Curriculum & Course Services (14) Teaching & Learning Professional Development (14) Teaching & Learning Technologies (22) Projects & Faculty Partnerships (14) Indigenous Initiatives (13) Planning, Administration & Communications (11) 	<ul style="list-style-type: none"> Course Development & Delivery Program renewal approaches Professional development Technologies

2) 共通した特徴

各機関のセンターでは FD 以外のニーズに合わせた支援事項が行われており、学習方略（アクティブラーニングやブレンデッドラーニング）やカリキュラムやコースデザインに関する教育に関わるテクノロジーが支援事項として共通にあった。また、主審雇用（Tenure track）の昇進に関わる Teaching Portfolio が必須でありその支援も共通している。学生からの聞き取り（インプット）は特に新規ツールの開発などに役立てられており、その重要性は共通して認めることである、教育の質に関するピアレビューの重要性も共通していた所感を得た。

3) 各機関の特徴

上記の聞き取り内容を「User Local 社 AI テキストマイニング

(<https://textmining.userlocal.jp/>)」で個々の抽出された名詞の頻度の多い順に 5 個までを示す。

(様式D-2)

(1) Teaching and Learning Services : McGill University

支援 - 提供	Q 5.00	5
学生 - 支援	Q 0.86	2
指導者 - 支援	Q 0.86	2
学生 - 非常勤	Q 1.00	1
教員 - サポート	Q 1.00	1

特徴として教員と学生の支援が多く抽出されている。また非常勤の教員が多く、その点にも触れているが具体的な対応については触れられていなかった。

(2) Center for Teaching and Learning : Concordia University

教員 - 開催	Q 3.00	2
ワークショップ - 参加	Q 1.50	2
大学 - 州政府	Q 1.00	1
大学 - 方針	Q 1.00	1
大学 - 意思決定	Q 1.00	1

特徴としてセンターの成り立ちから、拡充について頻度が多い印象であり、また大学との関わりについて多くの意見が交換された。

(3) Center for Teaching, Learning technology : UBC

教員 - 支援	Q 2.00	4
オンライン - 対面	Q 2.00	2
プロジェクト - 評価	Q 1.50	2
オープン - 教科書	Q 1.50	2
リソース - 作成	Q 1.50	2

特徴として部署が多様なこともあり、教員の支援はもとより教材（オンラインや対面）に関するものと、オープンリソースに関する教材についても触れており、幅広い意見が交換された。

今般、4ヶ所のカナダの大学におけるセンターの実態を聞き取りという形で調査し、それらの共通点と、質的に検討し解析したところ、上記のような共通点と、特徴が抽出された。日本大学の教育改善に資するには、現在のFD推進センターのプログラムのほか、教員に対する支援体制と、教育資源の提供にはどのような取り組みが必要なのかなどの示唆が得られたと思われる。

以 上